

第59回試験研究成果発表会（作物）発表概要

【動画配信期間】 令和4年2月21日（月）～3月18日（金）

【場 所】 YouTube「千葉県公式セミナーチャンネル」

発表1 成果発表

落花生新品種「Qなっつ」及び「おおまさりネオ」の採種における注意点と対策

落花生研究室 黒田 幸浩

落花生の採種栽培では、発芽及び生育が良好な種子の生産が求められます。しかし、近年の極端な高温乾燥や長雨といった気象条件の影響で、子実の充実不良や幼芽褐変症の発生、乾燥中のカビ菌の発生による種子品質低下が問題になっています。そこで、新品種の「Qなっつ」、「おおまさりネオ」を対象に、最近の各種機械の活用方法を含め、省力的に高品質種子を生産する際の注意点とその対策について紹介します。



播種作業時間が大幅に改善される
落花生播種機



平型乾燥機の使用により、短時間で乾燥を終了し、カビの発生が少ない種子を確保

発表2 成果発表

早生のWCS用イネ品種「つきはやか」の特性

水稲・畑地園芸研究所 水田利用研究室 宇賀神 七夕子

WCS（ホールクロップサイレージ）用イネ品種「つきはやか」は、穂重割合が約18%と少ない茎葉型で、現物収量は約3 t/10aの早生品種です。4月下旬に移植した場合、「たちあやか」より10日程早い7月23日頃に出穂期となるため、主食用米の収穫が始まる前の降雨量が少なく天候の良い8月上旬から収穫することができます。作期分散に有効な早生のWCS用新品種です。



出穂期頃の「つきはやか」（左）と出穂前の「たちあやか」（右）



8月下旬の「つきはやか」（左）と「たちあやか」（右）

発表3 情報提供

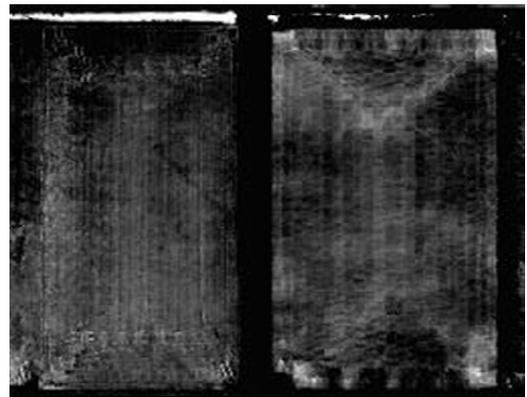
スマート機器等の活用から明らかになった水稲のジャンボタニシ被害を軽減する管理技術

病理昆虫研究室 清水 健

近年、水稲に大被害を発生させる「スクミリンゴガイ（通称ジャンボタニシ）」が問題となっています。一度発生した地域からは根絶することが難しい本種ですが、隣り合った水田で被害程度が大きく異なることがあります。スマート機器を活用して被害の出る水田、出にくい水田の状態を調査するとともに、従来の防除対策や管理作業方法の見直しによって、被害の発生を抑えられることが明らかとなりましたので紹介します。



スクミリンゴガイは移植直後の
苗を食害し欠株の原因に



被害の少ない圃場（左）と大きい圃場
（右）では田面の均平度に違いがあります